

○午後 1 時開会

○裏山議長 皆さん、こんにちは。

ただいまから第 1 2 回堺市議会議会報告会、中学生みらい議会を開催いたします。

私は、堺市議会議長の裏山正利と申します。

本日は、中学生みらい議会に、足元の悪い中御参加をいただきましてありがとうございます。

皆さんが今座っている席は、ふだん議員が座っている席でございます。どうかリラックスして参加をしてください。

さて、本日は、堺市議会では初めて、堺市の未来を担う中学生の方々をはじめ参加の呼びかけをいたしまして、総勢 36 人の皆さんに御参加をいただいております。どうも大変にありがとうございます。

初めに、第 1 部は、この議場で、私たちから議会の仕組みを分かりやすく紹介させていただきます。

続いて、皆さんが通う中学校の生活や学校教育に関わることを中心に、私たちが議会で話し合った内容について報告をさせていただきます。

その後に質疑応答の時間もございますので、皆さん、積極的に議員に質問をしてください。また、質問だけでなく、皆さんの感想なども自由に発言をしていただいておりますので、よろしく願いをいたします。

第 2 部は、場所を変えて、1 2 のグループに分かれ、皆さんと議員とで意見交換を行います。若者世代に共通する思いや、我々大人にはない斬新な意見を聞かせていただきたいと思っております。もちろん、一般参加の方々も活発な御意見をいただければと思います。

本日の中学生みらい議会が、参加いただいた皆さんにとって有意義な時間となれば幸いです。

私たち議員は、皆さんと直接お話し、様々な意見に耳を傾けることを楽しみにしております。

最後に、今もまだコロナの終息が見通せない状況でございます。本日はできる限りの感染対策を行って開催をいたしますので、マスクの着用など、皆さんも御協力のほどよろしくお願いをいたします。

それでは、山口典子議会運営委員長、司会進行をよろしくお願いいたします。

○山口議会運営委員会委員長 裏山議長、御挨拶ありがとうございました。

皆さん、こんにちは。私は、今日の総合司会進行役を務めます、議会運営委員長の山口典子と申します。本日はどうぞよろしくお願いをいたします。

皆さん、今日は議会報告会に御参加をいただきまして、本当にありがとうございます。

また、インターネット中継を御覧になっている皆さん、御視聴ありがとうございます。

それでは、本日の進行スケジュールについて御説明させていただきますが、着座にて説明をさせていただきます。

では、スクリーンを御覧ください。

本日の議会報告会は、2部構成で実施します。

まず第1部ですが、議員による議会報告といたしまして、「議会って何？」というテーマで、信貴良太議員から説明を行います。

その後引き続き、議会の審議報告として、堺市議会で議論された、中学校に関わる施策を中心に、黒田征樹議会運営副委員長から報告をいたします。

その後、質疑応答の時間を設けますので、皆さん、ここでいろいろと御質問してください。

第1部終了後は、この議場において、真ん中辺りで皆さんと集合写真、記念撮影を行いますので、その際には、御協力よろしくお願ひいたします。

記念撮影終了後、第2部では、10階と12階の5つの会場で12のテーブルに分かれて、「市政の諸課題について」をテーマに、参加者の皆さんと議員とで意見交換を行います。

テーマについては、例えば、校則・制服についてやクラブ活動についてなど、テーブルごとに関心のあるテーマを選んでいただき、意見交換を行っていただきます。

意見交換会が終了しましたら、本日の議会報告会は閉会となりますので、よろしくお願ひいたします。

それではここで、本日の出席議員を紹介します。

まず、先ほど御挨拶いたしました、議長の裏山正利議員です。

○裏山議長 こんにちは。

○山口議会運営委員会委員長 副議長の上村太一議員。

○上村副議長 こんにちは。今日はよろしくお願ひいたします。

○山口議会運営委員会委員長 市民人権委員会から、委員長の田代優子議員。

○田代市民人権委員会委員長 こんにちは。よろしくお願ひいたします。

○山口議会運営委員会委員長 副委員長の藤井載子議員。

○藤井市民人権委員会副委員長 こんにちは。よろしくお願ひいたします。

○山口議会運営委員会委員長 産業環境委員会から、委員長の的場慎一議員。

○的場産業環境委員会委員長 こんにちは。よろしくお願ひいたします。

○山口議会運営委員会委員長 副委員長の小野伸也議員。

○小野産業環境委員会副委員長 こんにちは。よろしくお願ひいたします。

○山口議会運営委員会委員長 建設委員会から、委員長の西田浩延議員。

○西田建設委員会委員長 こんにちは。よろしくお願ひいたします。

○山口議会運営委員会委員長 副委員長の上田勝人議員。

○上田建設委員会副委員長 こんにちは。よろしくお願ひいたします。

- 山口議会運営委員会委員長 文教委員会から、委員長の伊豆丸精二議員。
- 伊豆丸文教委員会委員長 こんにちは。よろしくお願いいたします。
- 山口議会運営委員会委員長 副委員長の石本京子議員。
- 石本文教委員会副委員長 こんにちは。よろしくお願いいたします。
- 山口議会運営委員会委員長 総務財政委員会から、委員長の池尻秀樹議員。
- 池尻総務財政委員会委員長 こんにちは。よろしくお願いいたします。
- 山口議会運営委員会委員長 副委員長の大西耕治議員。
- 大西総務財政委員会副委員長 こんにちは。よろしくお願いいたします。
- 山口議会運営委員会委員長 健康福祉委員会から、委員長の西川良平議員。
- 西川健康福祉委員会委員長 こんにちは。よろしくお願いいたします。
- 山口議会運営委員会委員長 副委員長の上野充司議員。
- 上野健康福祉委員会副委員長 こんにちは。よろしくお願いいたします。
- 山口議会運営委員会委員長 この後、議会報告を行っていただく信貴良太議員。
- 信貴議員 みなさま、こんにちは。
- 山口議会運営委員会委員長 最後になってしまいましたが、私の横におられますのが議会運営副委員長の黒田征樹議員です。
- 黒田議会運営委員会副委員長 みなさん、今日はありがとうございます。
- 山口議会運営委員会委員長 どうぞよろしくお願いいたします。
ただいま紹介しました議員以外にも、本日は多くの議員が参加しております。
第2部の各テーブルで自己紹介いたしますので、よろしくお願いいたします。
それでは早速ですが、第1部、議員による議会報告を始めたいと思います。
信貴良太議員、黒田議会運営副委員長、よろしくお願いいたします。

第1部 議会報告

- 信貴議員 では皆様、改めましてこんにちは。私は堺市議会議員の信貴良太と申します。
私からは、第1部のイントロダクションということで、「議会って何？」について、皆様方にそもそも市議会ってどんなところなのか、またどんなことをしていて、そして議員ってどんな人なのか、そういったことについてこれより説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。
資料のほうは、皆様のお手元にございます資料の中から、1ページ目、「議会って何？」と書いているところを開いていただくか、あるいは同じものをこちらのスクリーンに映しておりますので、どちらか見やすいほうで御覧をいただければと思います。
では、早速次のページに移ってください。

まず、「議会って何？」ということですが、大前提といたしまして、堺市議会とは、私たちの堺市を住んでよかった、そして住みたい、そう思えるまちづくりをするために、堺市民の代表者であります私たち堺市議会議員と、地方公共団体の長であります堺市長が、話し合いをしながら、様々なことを決める場所です。

地方公共団体、堺市はその話し合いをして決まったことなどを執行する義務を負うために、執行機関といいます。

これに対して、議会は地方公共団体、堺市の最終的な意思決定を行う権限があることから、議決機関といいます。

ちなみに、執行機関の長である堺市長も議決機関の代表者である私たち堺市議会議員も、どちらも市民から直接選挙で選ばれており、その制度のことを二元代表制といいます。

つまり、議会のことをよく二元代表制の一翼を担うという言い方をしますが、二元代表制の一翼を担う機関といたしまして、その役割を果たしていく必要が議会にはございます。

では、次のページに移ってください。

この図を見ていただきますと、今説明したとおり、市民は市長と議会議員を選挙で選んでいる。矢印が出ていていると思いますが、選挙で選んでいることが分かります。

では、なぜこの二元代表制が必要なのか。市長と議会の間にも双方に矢印が引かれており、話し合いをしている様子がありますが、その話し合いは、ではなぜ必要なのか。そのことを説明したいと思います。

矢印の中には、市の計画やお金の使い方を提案・説明するというふうに書いてあると思いますが、その内容をまず詳しくお伝えをさせていただきます。

市長は、執行機関の長といたしまして、市の予算を組み、条例の制定や改正を提案します。また、税金の課税と徴収、あるいは保健、福祉、環境、道路、上下水道、文化、そして皆さんが深く関係をする教育などについて、どのように取り組んでいくかを考え、提案・説明を議会にいたします。

しかし、その考えが必ずしも正しいとは限らないため、それをチェックをする人、つまり行政を監視する人が必要です。そこで、市民の代表者である私たち市議会議員は、これを監視し、また市民から聞いた多様な意見を市の取組に反映をさせるために、市長と話し合いをしながら、議決機関の役割を果たしています。

では次に、どんな話し合いをしているのかについて説明をさせていただきます。

次のページに移ってください。

この資料の中に①から⑤という形で、大きくどんな話し合いをしているのかを示しております。この①から⑤について、堺市の状況を踏まえて説明したいと思います。

まず、①に市の決まり（条例）を決めますと書いてあります。

まず、国で定めるルールのことを法律といいます。条例とは、堺市内におけるルール、

このことを条例といいます。その条例は、現在、堺市に316の条例が存在しています。

次に、②市の仕事をするためにお金をどのように使うか（予算）を決めます。またそのお金が正しく使われたかどうか（決算）を確認しますと書いています。そこで、本市の直近の予算と決算額をお伝えをしたいと思います。まず予算額であります。令和4年度の一般会計当初予算額、これは4,267億円でございます。次に、決算額は令和3年度一般会計決算額、入ってくるお金、歳入の総額が4,696億7,000万円、出ていくお金、歳出総額が4,615億3,000万円。突然複雑な数字が出てきましたが、後ほどこれについては詳しい説明もありますので、大まかな規模感を覚えておいてください。

次に、③市の仕事が市民のために正しく行われているかどうかを調べますと書いています。これは直近の議会においては、堺市の決め事である条例など28件について話し合いをし、決定、可決をいたしました。

次に、④国や大阪府に対して、改善してほしいところや新しく取り組んでほしいという意見を出しますと書いてあります。市議会では、国や府、大阪府に対して意見があるとき、意見書を提出することができます。その意見書は、直近の議会においては、議会から6件提案され、そのうち4件が正式な意見書として決定、可決されました。

次に、⑤副市長、教育長など、大切な役職に就く人を決めるときに、議会の同意が必要で書かれてあります。これについても、直近の議会においては、前教育長の辞任に伴いまして、新たな教育長の任命について議会では同意しております。

少し長くなりましたが、話し合いの内容については以上となります。

では、次のページへ移ってください。

議員はどうやって選ぶのというところではありますが、先ほど、初めのほうに、議員は市民の代表者としたしまして、市民から直接選挙によって選ばれていると説明をさせていただきました。では、どうやって選ばれているのかについて説明をしたいと思います。

まず、議員は4年ごとに行われる選挙で選ばれます。その選挙に立候補する権利のことを被選挙権といいます。被選挙権は、市内に3か月以上在住する満25歳以上の日本国籍を有する方であれば、どなたでも可能です。また、投票できる権利、これのことを選挙権といいます。選挙権は、市内に3か月以上在住する満18歳以上の日本国籍を有する方が可能です。立候補した方の中から、選挙権を有する市民の投票によって議員は選ばれています。

では、次のページに移ってください。

その選ばれる議員は、一体何人いるのか、そのことについて説明をしたいと思います。

まず、堺市議会議員の数は、先ほど申し上げました本市の条例によって定められています。48人と定められています。政令指定都市であるここ堺市では、市内の行政区ごとに選挙区が分かれておりまして、区の人口によって議員の数が変わります。その一覧を資料に載せております。例えば、市内で最も人口の多い北区や次に人口の多い堺区では9人、そして人口

の少ない美原区では2人となっております。皆さんのお住まいの区の議員の数を確認しておいてください。

また、議員は議会内で活動を共にしようとする議員同士でグループをつくります。そのことを会派といいます。資料の中にそれぞれの会派の名前と、そしてそれに所属する議員の数を示しているのです、これも確認をしておいてください。

では、最後に、どんな人が議員なのかについて説明をしたいと思います。

次のページに移ってください。

まず、議員の年齢についてであります。一番年齢の高い議員は81歳で、今、傍聴の席でカメラを撮っておられますが、長谷川議員でございます。反対に、一番若い議員が加藤議員であります。平均年齢は55.4歳となっております。この55.4歳が高いと感じるのか低いと感じるのか、それは皆様、人それぞれによって感じ方が違うと思いますが、今日は1つ参考になる別の数字を準備させていただきました。

それは、堺市を含む全国の市議会の平均年齢でございます。実は、データは堺市議会の平均年齢は、まさに今現状の平均年齢に対して、全国の数字は去年の7月と1年ちょっと古いデータなので、年齢を比較するにはやや不正確なところもございますが、これを最新のデータということで参考にしたいと思います。では、全国市議会議員の平均年齢、これは59.8歳となっております。実際は先ほど言いました1年ぐらいブランクがありますので、多少は数字も変わってくると思いますが、この数字を見ると堺市は全国の平均年齢と比べると4.4歳若いということになります。

次に、女性議員の数をお伝えします。今、議員の数、全部で48人ですが、欠員が2人いますので、46人、そのうち8人が女性の議員であります。これを割合にすると、資料には17と書いていますが、正確には17.4%でございます。これも全国の市議会の数と割合を比較をしたいと思いますが、全国女性議員の数の割合は17.2%、本市とほとんど同じ割合であることが分かりました。

皆さんは、この後の第2部の意見交換会において、担当議員と話す機会があると思いますので、今、説明したこと以外に、議員ってどんな人なのかということについては御自身で感じていただけるものと思いますが、これで、どんな人が議員なの？、の説明も終わらせていただきます。

では、分からなかったこと、御不明な点につきましては、後ほど質問する機会もあると思いますので、第1部イントロダクション「議会って何？」の説明については、これで終わらせていただきたいと思います。

この後、隣の黒田議員より議会の審議報告をさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

○黒田議会運営委員会副委員長 皆さん、こんにちは。議会運営委員会で副委員長をさせていただいております黒田征樹でございます。今日は、本当に忙しい中、お越しいたきまして、ありがとうございます。

僕からは、この議会でどのようなことが議論をされているのかというところを御説明していきたいというふうに思います。

先ほど、信貴議員から御報告があったとおり、私たちは市長から提案をされた堺市の予算、お金の使い道についてチェックをして話し合いをしております。堺市の基本的な事業に使うお金を一般会計というふうにいいます。グラフ、お手元の資料にもあると思いますけれども、見やすいほうで確認していただければと思います。

この中で、割合が大きい順から、福祉サービスとして、生活に困っている方に支援をするという、そういう予算から、学校や保育所を運営したり、そしてまた道路や公園、体育館、こういうものを造ったり、皆さんの毎日の生活で出るごみを燃やしたり、そういうようなことをする、そのためのお金でございます。それが、今年度、1年間で4, 267億円を予定しております。

堺市の人口は約82万人ですから、赤ちゃんからお年寄りまで市民1人当たりになると、およそ50万円というお金になります。中学生の皆さんからしたら、非常に大きいお金だというふうなことは御理解いただけると思います。これを無駄遣いがないか、もっといい使い方はないのかというようなところを議論しているというところで、そういった非常に重要な役割を議会が担っているということ、御理解いただければありがたいなというふうに思います。

この一般会計のほかにも、税金ではなくて、保険料などで賄われる特別会計、そして水道料金などで料金として集められる企業会計、そういったものも今の予算とは別であることも申し添えておきます。

次の資料、お願いします。

一般会計4, 267億円のうち教育に使われるお金は646億円、およそ15%であります。さらに、その内訳を見ますと、まずどこに使っているかというところでありまして、646億円のうち41%が小学校、約20%が中学校に使われております。ほかに高校に1.4%、これは堺市立堺高校であります。堺市の幼稚園が8園ありますが、これに使うお金が全体の0.7%、障害を持った子どもたちのための特別支援学校に2.5%、図書館など、大人も含めて、社会全体の教育につながるものが7.3%であります。それら全体を統括するための予算が全体の27.2%であります。

次に、どんなことに使っているかであります。全体の3分の2は人件費であります。ほとんどが学校の先生のお給料だと思ってください。

次に、物件費が20%ほど、学校の備品を買うお金、図書館の本を買うお金、そして皆さ

んにも配られているタブレット端末の費用もここに入ってきます。また、校舎を建てたり、トイレを改修したりする建設事業費は8.2%、ほかにも経済的に困っている人も同じように学校に行けるようにするための支援の扶助費等があります。

次に進んでください。

では、具体的に、私たちがどんなことについて議論してきたのか、学校で関連するものから幾つか御紹介いたします。

ここで知ってほしいことが2つあります。1つは、議会で議論していることは、自分たちに関係あるんだということでありまして、議会や議員というと、自分たちにはあまり関係のない遠い世界の話だと思ってしまうかもしれませんが、決してそうではありません。もう一つは、賛成、反対も含め、いろんな意見があるんだということでもあります。

1つ目に紹介するのは、学校のエアコン設置についてであります。昔は、学校の教室にエアコンというものはありませんでした。でも、それでは暑くて勉強ができないということで、先ほど説明した600億円ほどの年間の教育予算から少しずつ捻出をして、エアコンの設置を進めてきました。平成23年から今年度までの費用の合計で109億円です。平成27年までに中学校、28年に小学校の普通教室の設置が終わって、さらに昨年度と今年度で小学校の理科室などの特別教室への設置を完了しております。

この学校へのエアコン設置について、議会に出た意見の一部を御紹介します。

青の吹き出し部分は賛成の意見、赤の吹き出しは反対や付け足しの意見であります。例えば、学校環境の改善に重要だという御意見や、一斉に全部の教室にはつけられないから、優先順位をつけるなら、受験生の中3の教室に先に設置すべき等の意見があり、実際にそのように進んでおります。また、反対ではないけれども、付け足し意見として、まだ予定のない体育館にも設置をするべきじゃないかといった、そういった御意見も出ております。

次のページ行きます。

次に、中学校給食の導入であります。これも中学生には関係の深いことです。令和7年度、つまり3年後のスタートに向けて、今、給食のセンターを造ろうとしております。平成28年に選択制の給食がスタートしましたがけれども、全員が一緒のほうがいい、子育ての支援にもなるし、食育にもなるという意見も出て、令和2年度に、小学校と同じような全員喫食の中学校給食の方針が決定をして、計画がつくられました。給食を始めるなら、環境にも配慮して、給食センターで食品リサイクルの取組を進めてほしいという御意見もありましたし、そもそも愛情を込めた弁当も大事だから給食はしなくていいという、そういった反対意見もありました。

今、中学生の皆さんは、この給食がスタートする頃には卒業してしまっていますが、中学校の給食、これ皆さん、そもそも賛成か反対かというところで、一度賛成の人、手を挙げていただいていいですか。

結構、賛成が多いですね。ありがとうございます。

このように、でも、今ここにお集まりいただいた中学生の中でも賛成の意見、反対の意見というものがあったりする。そんな中で、それを話し合っただけで結論を導き出していくというのが議会の仕事でありまして、中学校の給食については導入をしようということで、この堺市議会において決定をいたしました。

次のページ、お願いします。

続いて、児童・生徒1人1台のタブレット端末についてであります。皆さん、授業や自主学習でタブレット、これ、うまいこと活用できていますでしょうか。以前から国で議論されていたGIGAスクール構想ですが、御存じのとおり、このコロナ禍をきっかけにして、堺市でも一気に議論が進みました。最初は通信状態が悪いというお話もありましたけれども、昨年度に各学校で大容量通信ネットワーク、これの整備が完了しております。議会ではオンライン授業で活用できるので、積極的に導入すべきという賛成意見や、授業だけでなく、先生方の事務仕事の効率化にもつながるからいいんじゃないかという、そういった意見がある一方で、ICTに不慣れな先生方もいらっしゃいますから、一斉導入は、逆に負担になるんじゃないかといった、そういう慎重意見、反対意見もありました。

続いて、次のページに進んでください。

次は、学校司書の配置についてであります。以前は、学校の図書館、つまり図書室に行っても鍵が閉まったままということはよくありました。図書室を開けて本を整理したり、それぞれの子どもに合った本を進めたり、新しく購入する本を選んだり、学校司書さんを増やしてきました。そういった仕事をしていただいている学校の司書さんを、これまで堺市議会で議決をして増やしてまいりました。まずは、中学校に続いて小学校にというふうな感じで進めてまいりました。

図書室をいつでも開けるために、そして本を読むことと学力の関係、これが大きいということから、学校司書さんを増やして、皆さんが本に触れる機会を増やすべきという御意見もありました。一方、今でも全国の学校に比べれば、まだまだ配置が足りていないということで、もっと増やす必要があるんじゃないかという御意見が出されております。

次のページ、お願いします。

皆さん、部活動とかされている方、いらっしゃいますでしょうか。先生ではない、学校以外の方が教えに来てくれるという方、そういった方おられるかもしれませんが、堺市では、そのような部活動の外部指導者の派遣、これを進めてきました。20年以上前に始まった事業ですけれども、4年前には、単に教えるだけではなくて、顧問の役割を担えるような外部指導者も派遣するようになっております。

こうした外部の人材を、人の力を借りることで、より専門的な指導で、生徒のためになるだけでなく、学校の先生の負担軽減にもつながります。ですので、積極的に増員していくべ

きだという御意見がありました。

一方で、部活動は、あくまで教育なので、単にその部活動、例えば、野球なら野球がうまい人だったら誰でもいいわけじゃなくて、教育的に配慮ができる人か、人選が最も重要だという慎重な御意見もありました。

以上、エアコンのこと、給食のこと、そしてまたタブレットのこと、図書室のこと、最後に部活動のこと、いずれも皆さんにとって、とても関わりの深い話だというふうに思います。

次のページ、お願いします。

この5つの例だけじゃなくて、学校や教育について、私たちはたくさんの議論をしてきております。例えば、昨年度の文教委員会という教育について話し合う委員会では、このような議論がありました。夏場の登下校や運動をするときは、熱中症対策を優先して、マスクを原則外すべきではないか。小学校では、1クラス35人の少人数学級が進んでいますけれども、中学校もそうすべきじゃないか。また、時代に合わない、いわゆるブラック校則は見直していくべきではないか。そして、障害を持った児童・生徒のための特別支援教育を拡充するべきではないか。堺市がこれまでも取り組んできたジェンダー平等教育をさらに強化するべきではないのか。子どもたちを取り巻く家庭や社会環境を支援するには、学校のソーシャルワーカーと地域のコミュニティソーシャルワーカーがもっと連携をしていくべきじゃないか。通学路の安全一斉調査をして、計画的により危ないところから対策を進めていくべきではないかなどなど、そういった議論もありました。

もちろんこれだけではありません。もっとももっとたくさんの学校や教育について議論がありまして、議会では、皆様に身近なことについてもたくさん議論しているということ、ぜひ知っていただければなというふうに思います。

以上で、議会審議についての報告を終わります。

この厳しい財政状況の中で、我々堺市議会は、限りある財源を新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、各事業に有効に使うべく、これからも議会において真摯に議論を重ねてまいります。

以上をもちまして、議会の審議報告を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございます。（拍手）

○山口議会運営委員会委員長 それでは、信貴良太議員、黒田征樹議会運営副委員長、ありがとうございます。

それでは、ここから、少しなんですけれども、質疑応答の時間とします。

時間の都合上、挙手いただいた皆さん全員に御質問いただけるかどうか、発言いただけない可能性もあると思いますが、その辺りはどうぞ御了承いただきたいと思います。

なお、質問していただくときは、皆さんの座席の番号で指名をさせていただきますので、指名されましたら、御起立をいただき、質問をなさってください。

それでは、御質問のある方いらっしゃいますでしょうか。何でも結構です。

じゃあ、6番の方、どうぞ。

○参加者（6番） 予算のお金は、特に何の税金から来ているんですか。

○山口議会運営委員会委員長 予算のお金は、特に何の税金から来ているか。

どなたにお答えいただけますでしょうか。

議員さんも手を挙げて答えていただきます。

総務財政委員長。

○池尻総務財政委員会委員長 予算のお金は、国のほうから予算もいただいております。そして、政令指定都市は、国に直接予算を取りにいくことができます。これが、やはり政令指定都市としての大都市制度の一番肝心なところでもありますので。よろしいでしょうか。

○山口議会運営委員会委員長 もっと詳しいことを答えられる議員、わざと、今、委員長さん、簡単に言いましたけれども。後でまたテーブルごとで、また聞いてください。

ほかに御質問ありませんか。

20番の方、どうぞ。

○参加者（20番） 先生の残業とかというのは、とても多いように感じるんですけど、どうお考えですか。

○山口議会運営委員会委員長 じゃあ、これに関しましては、本来は文教委員会ですから、文教委員会の元先生の石本議員、よろしくお願いします。

○石本文教委員会副委員長 石本です。お答えをさせていただきます。

今の先生は、本当に忙しい毎日を送っていらっしゃると思います。朝早くから夜遅い方は10時頃までお仕事するという、その実態を聞いております。いろいろ中身はあると思うのですが、1つ言われているのが、報告文書が多いとか、それから報告の前には計画文書を提出しなければならないとか、そうした文書関係の仕事も非常に多いということです。それと、もう一つは、学力向上、この取組が非常に盛んになっていると。だから、そのためにどのようにして中学生、生徒の皆さんに勉強を教えたらいいのかという、そういう方法とか、あるいは、より有効な資料を整えるとか、そうした、いわゆる教材の準備とかもあると思います。

さらに、先生といたしましても社会人ですから、お家に帰ればお父さん、お母さんという立場の人もいらっしゃるから、お子さんを保育所に迎えにいかなあかんとか、そういうことで限られた時間、これがなかなか取れないという、そういう悩みもあると思います。

それと一番大事なのは、一人一人の生徒の皆さんの状況、何か、あの子は今日浮かない顔をしてたけど、何か心配事でもあったのかなとか、そうしたことも考える。一言で言えば、仕事がすごく多いんです。それで少人数学級ということが、いろいろ話題になっておりますが、そうしたことも先生たちのお仕事を少しでも軽減することができ、もっときめ細かな教育活動ができるようにということは、今、本当に日本国中、誰もが思うことだと思いますので、ぜひその方向で頑張っていきたいと思います。

御質問いただいて、ありがとうございました。

○山口議会運営委員会委員長 ありがとうございました。

20番の方、学校の先生の残業、やっぱり気になるぐらい残業されてますか。

そうなんですね。

じゃあ、ほかに皆さん、御質問ありませんか。たくさん挙がりましたね。

前から行きましょうか。

一番に上がった23番の方ですね、どうぞ。

○参加者（23番） 中学校給食の導入についてなんですけど、令和7年から中学生全員が給食になると書いてたんですけど、その場合って、どんな感じになるんですか。小学校のときみたいに、配膳式なのか、中学校の給食みたいに、お弁当みたいな感じなんですか。

○山口議会運営委員会委員長 一応、大体予測は出てますよね。

文教委員長、お答えいただけますか。

○伊豆丸文教委員会委員長 一応、給食センターというものを今堺市のほうで建設を進めております。なので、小学校のように、それぞれの学校で給食室があって、給食の調理員の方が作るということではなくて、給食センターで市内の43中学校の給食を作って、そこから各中学校に配送していくというような計画を現在考えております。

今、令和7年度まで、そういった計画、今でき上がってますので、これから建物の工事を始めて、建設をして、完成に向けていくというような流れを議会のほうにも報告をいただいております。以上です。

○山口議会運営委員会委員長 よろしいですか。

まだ突っ込みたい場合は、ちょっと第2部でどうぞ突っ込んでください、テーブルでね。恐れ入りますが。

じゃあ、8番の方、どうぞ。

○参加者（8番） 中学校給食の導入なんですけど、わざわざ全員給食にする明確なメリットが分からないんですけど、それってどうなんですか。

○山口議会運営委員会委員長 議員さんの中にも、それに関しては、いろいろと御意見があるんです。一応やるということにはなりましたが、取りあえずメリット、お答えなさいたい議員さん、いらっしゃいますか。

文教副委員長、石本議員、どうぞ。

○石本文教委員会副委員長 給食の歴史という本が、今、非常に話題になっているんですけど、読まれた方、いらっしゃいますか。いらっしゃいませんか。

給食は、本当に1800年代の終わり頃から、あちこちで行われています。それで、給食は、今日までずっと100年、200年と続いてきた、その一番の大きな理由は、やはり社会の貧困の問題です。そして、災害の問題も大きく関わっているんですね。全ての子どもた

ちを、おなかをすかせて泣いているような子どもたちをなくしたいという、そういう全ての大人の願いといいますか、それがやはり根底にあったのだと思います。

それから、災害とか戦争も含まれますが、災害や戦争によって、本当に大きな困難が人々の上に広がる。一番何ととっても大事なものは、食べることですよね、命を長らえさせるためには。だから、本当に総力を挙げて、そこに力を集中していく、その1つの現れが給食。学校だけじゃないんですよ、給食はね。病院でもあるし、もちろん軍隊などでもありました。とにかく食をしっかりと確保するという、そういう命への人々の願いがあるものだと思います。

今度の中学校の給食の場合も、それにかかっております。今、子どもの貧困の問題が非常に大きな話題になっていますね。相対的貧困ということで、昔のような目立った貧困はなくても、いろんな形で中学生の成長に影響することがあるということで、中学校の全員喫食、やらなければいけないと。日本全国の中でも、結構たくさんの自治体で、既に行われておるところは、たくさんあるということなのです。以上です。

- 山口議会運営委員会委員長 堺は、特に二十数年前に、小学校の学校給食で〇157という、本当に未曾有の事故が起こりまして、4人の方が給食を食べて亡くなった経験があるので、給食の議論をするときも、貧困の子どもたちのためであると同時に、安全な給食を提供するというので、随分議会でも深く議論されております。

では、27番の方、どうぞ。

- 参加者（27番） 1人1台のタブレット端末についてなんですけど、そこでオンライン授業での活用をと書いているんですけど、そういう授業であまりタブレット端末についての説明がなくて、学習に後れをとってしまう子とかが出てきてしまうかもしれなくて、私自身もあまり機械を使い慣れていないんですけど、そこについてはどうお考えですか。

- 山口議会運営委員会委員長 貴重な意見が出てきましたよ。これは第2部でも、ちょっと皆さん、それぞれのテーブルでやってほしいことなんですけど、当然、端末の話ですから、文教委員会になるんですけども、文教委員長、じゃあちょっと、取りあえずお答えいただけますか。

- 伊豆丸文教委員会委員長 議会でも同様の議論がずっと行われてます。最大の要因は、やっぱり学校の先生たちが、なかなかタブレット端末を使った授業をこれまでやってこなかったと。急に国の方針で、1人1台端末が一気に整備をされたと。コロナで整備されたという経緯があります。やっぱり学校の先生たちも、どういうふうに活用したらいいのかというのを今試行錯誤の状況で進めているというところもあって、割と若い先生たちは、タブレット端末を十分に活用している学校もあるというふうには聞いてますが、なかなか活用が進んでいないという実態もあって、学校間あるいはクラス間でも、格差といいますか、その活用の度合いがかなり差があるというふうには聞いてます。

じゃあ、これどうやっていくのかということで、今、教育委員会でも具体的にこうい

ころでタブレット端末を使いましょうというマニュアルみたいなもの、一覧表を各学校園に配布をして、活用を今推進している状況でありますので、いまだ十分ではないというお声は、我々議会のほうにもそういったお声は聞いておりますけども、一步一步着実に活用に向けて進めているという状況であります。以上です。

○山口議会運営委員会委員長 SDG s 未来都市・堺ですから、誰一人取り残さないように、ICTとか、デジタルの問題についても進めていってほしいですね。そんな意見が議会でも出ています。

ほかに御質問ありませんか。

16番の方、どうぞ。

○参加者（16番） 先ほど条例の話で、堺市には316の条例があるとお話されていたんですけど、堺市独特の条例というのは、どのようなものがありますか。

○山口議会運営委員会委員長 堺市独特の条例、ええ質問ですね。

どうぞ、上野議員。

○上野健康福祉委員会副委員長 僕、1年生議員で、まだ4年間しかやってないんで、まだまだ条例がいろいろこんなにあるんだと。全部が全部、頭に入っているわけではないですけども、一度議会でも、僕自身も質問させてもらったものに、堺茶の湯まちづくり条例というのがあります。ほかのお茶を中心にした取組をしている市も幾つかあるんですけども、皆さんも御存じかと思いますが、堺市は千利休が生まれたところで、お茶のまちとして、堺でお茶の面から地域を盛り上げていこう、伝統文化を伝えていこう、お茶による健康とかを伝えていこうということを堺市全体で取り組んでいただきたいというような条例があります。

条例によって、それに取り組むということで、いろんな堺市の行政の中でも、健康のことやしているところ、産業のことやしているところ、あと観光のことやしているところ、皆が一体となって取り組みましょうというようなことが条例によって活性化される、全体で取り組もうということができるといったようなことがあります。

1つは、条例上げると、そういったものがあります。

○山口議会運営委員会委員長 例えば、そういう条例です。おもしろいでしょう。

それと、ついでに言うなら、男女共同参画条例、男女平等を進める条例というのは、大阪府下で一番に堺市がつくった条例です。ちょっと自慢できる。

では、ほかに御質問。34番の方、どうぞ。

○参加者（34番） 中学校給食の導入についてなんですけど、全員が給食にしたら、アレルギー体質の人とかにはどういう対応を取っていくのか気になるんですけど、どうでしょうか。

○山口議会運営委員会委員長 文教委員長、お答えください。

○伊豆丸文教委員会委員長 その質問は、たしか昨年度、議会でも出てました。アレルギーを持つ方、これ小学校もそうなんですけど、そのミスはどうやって防いでいくかというところ

で、よく言われるのは、情報連携を取りましょうということと言われるんですが、それだけではなくて、先ほど申し上げたICTの活用というのが言われてますので、そこを踏まえて、しっかりとシステムとして、アレルギーのある子にアレルギー反応のある食材を与えないといった、その安全性をしっかりと確保するべきだという意見は、議会からも出てますので、そこはこれからも引き続き教育委員会と協議をしながら、アレルギー対策というのは、しっかりと進めていかないといけないと思います。

先ほど、メリット何ですかという質問があったんですが、デメリット、これ裏返しだと思っていて、やっぱりそういったところも配慮の必要な子どもたちもいますので、そういったところへもしっかりと手当てをしていくような議論を進めていかないといけないというふうに思ってます。以上です。

○山口議会運営委員会委員長 それじゃあ、皆さん、たくさん、あと三、四人手挙げていただいていたんですが、残念ながら、ちょっと時間が来ちゃったんですが、よろしいですか。どうしてもここでしゃべらせてという方いらっしゃいますか。

そう言われてたら挙げにくいですね。すみません。

じゃあ、すみませんが、質疑応答の続きは第2部、それぞれのテーブルで一度御発言を必ずなさってください。今、手を挙げておられた皆さん、それぞれの議員さんのテーブルに担当のところに来られましたら、ぜひとも御発言いただくようお願いをいたします。

じゃあ、これを持ちまして、第1部議会報告会を終了させていただきます。